

なかがわ 議会だより

No **122**

2017.10

▶発行/中川町議会 編集/議会広報特別委員会



9月24日 中川中学校第70回学校祭

主な 内容

- 第2回 臨時会
- 第3回 定例会〔一般質問 2氏〕
- 中川議会公共施設建設・改修調査特別委員会報告
- 議会関連報告
- 議会日誌 ● 編集後記

第二回臨時会

平成29年7月25日招集

平成29年第2回臨時会は7月25日招集され、会期を1日と決し、議案1件を議決し閉会しました。

議案審議結果

【予算】

▼平成29年度中川町一般会計予算補正について

■歳入歳出総額からそれぞれ38万円を減額し、予算総額をそれぞれ44億1736万3千円とする。

【原案可決】

主な補正内容は社会福祉協議会運営費補助金の追加。一般職職員給料などの減額。

補正の理由は社会福祉協議会における常務理事職の設置による。常務理事の配置は本年8月1日。

質疑応答

▼平成29年度中川町一般会計予算補正について

問 社会福祉協議会運営費補助金の追加であるが、来年度もこのまま助成を続けるのか？

答 来年度以降も2、3年はこ

のまま助成を続ける見通し。

問 この度、常務理事に任命される再任用職員退職後の町職員配置、採用は？

答 しばらくは現状の職員配置のまま業務を行う。

問 社会福祉協議会（以下、社協という）に経営改善計画を提出してもらうべき。

答 経営改善計画については今後社協に作成、提出を求める。経営改善計画を求める上で、町と社協との連携を深めるべき。

問 経営改善計画は社協が自らの責任で作成、実施すべきと考える。この度、配置される常務理事には行政経験を生かした経営を期待している。

問 社協の経営立て直しに向けて、今後の体制をどのようにすべきと町としては考えるか？

答 町の人口規模を考えると、今までの全町民型の体制を維持するのが望ましいと考える。

議会広報研修会に参加して

平成29年8月22日、札幌市で開催された議会広報研修会に参加してまいりました。内容としては、講師に広報アナリストである吉村潔氏を迎え、各町村議会が実際に発行している議会広報を基に良い点、改善点を具体的に説明され、さらには議会広報の取り組みが先進的である全国各地の議会を例として取り上げるなど、より分かりやすいものでした。

特に今回は、近隣町村の多くが広報紙のクリニックを受けており、私たち広報委員も大変刺激を受けました。

今回の研修を受け、改めて町民の皆様が手に取って見やすい、読みやすい、わかりやすい広報とは何かを考え、内容についても改善していきたいと思います。

引き続き議会がどんな活動をし、どんな議論をしているのか伝える、伝わるをモットーに広報を作成してまいります。



議会を傍聴しませんか

議会の活性化のために、
多くの町民の皆さまの傍聴を
お待ちしております。



◆第3回定例会◆

平成29年第3回定例会は9月20日招集され、会期を1日と決し、2議員の一般質問、選挙1件、報告2件、議案3件、予算4件、認定6件、意見書2件、会議規則5件を議決し、認定6件は決算審査特別委員会に付託され、閉会しました。



第3回定例会の様子

議案審議結果

【選挙】

▼中川町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙

指名推薦による選挙

選挙管理委員

谷口 充洋 氏
村田 ひさ子 氏
一戸 孟男 氏
石垣 オリエ 氏

選挙管理委員補充員

第1番 大見 孝夫 氏
第2番 立松 潤也 氏
第3番 河瀬 敏子 氏
第4番 佐武 ひとみ 氏

【選挙完了】

【同意】

▼中川町教育委員会委員の任命

椿本 寿美 氏

【原案同意】

【報告】

▼平成28年度中川町健全化判断比率の報告

【報告済】

早期健全化基準等に該当せず。

▼平成28年度中川町資金不足比率の報告

【報告済】

経営健全化基準等に該当せず。

【規約など】

▼北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

【原案可決】

西胆振消防組合及び江差町ほか2町学校給食組合の名称変更に伴う変更。

▼北海道市町村総合事務組合規約の変更

【原案可決】

▼北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

【原案可決】

▼平成29年度中川町一般会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ1129万9千円を追加し、予算総額をそれぞれ44億2866万2千円とする。

【原案可決】

主な補正内容は産地パワーアップ事業助成金、ポンピラアクアリズینگ施設改修実施設計委託料などの追加、厨房給排水改修工事請負費などの減額。

▼平成29年度中川町国民健康保険特別会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ113万8千円を追加し、予算総額をそれぞれ2億8258万2千円とする。

【原案可決】

主な補正内容は退職被保険

者等保険税還付金及び国庫負担金返還金などの追加。

▼平成29年度中川町介護保険特別会計予算補正

■保険事業勘定の歳入歳出総額に、それぞれ81万円を追加し、予算総額をそれぞれ2億1946万円とする。

【原案可決】

主な補正内容は介護保険システム社会保障・税番号制度改修委託料などの追加。

▼平成29年度中川町農業集落排水事業特別会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ200万8千円を追加し、予算総額をそれぞれ9804万5千円とする。

【原案可決】

主な補正内容は合併処理浄化槽設置工事などの追加。

【認定】

▼平成28年度中川町一般会計歳入歳出決算認定

▼平成28年度中川町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

▼平成28年度中川町介護保険特別会計歳入歳出決算認定

▼平成28年度中川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定

▼平成28年度中川町簡易水道

認定

事業特別会計歳入歳出決算認定

▼平成28年度中川町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定

■いずれも決算審査特別委員会へ付託、11月30日までに審査終了。

決算審査特別委員会

委員長 鎌塚 一成

副委員長 小川 鉄吉

【意見書】

▼林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

▼「全国森林環境税」の創設に関する意見書

■地方自治法第99条の規定に基づき衆参両院議長、内閣総理大臣及び関係各位に送付。
※意見書は5ページに掲載

【会議規則に伴うもの】

▼中川町議会公共施設建設・改修調査特別委員会報告

■事件

1 幼児センター新築について

2 ポンピラアクアリズイン

グ改修について

3 木質バイオマスボイラー導入について

※報告内容は8ページに掲載

▼閉会中の継続審査の申し出（総務常任委員会）

■事件

- 1 子育て支援施策について
- 2 防災体制の確立について
- 3 総務常任委員会にかかわる施策について

■期限

平成29年第4回定例会まで。

【継続調査決定】

▼閉会中の継続審査の申し出（経済常任委員会）

■事件

- 1 産業振興対策の現況と今後の展開について
・木質バイオマスエネルギーについて
- 2 農地対策について
・公共施設の今後のあり方について
・自給飼料センターについて

■期限

平成29年第4回定例会まで。

【継続調査決定】

▼閉会中の継続審査の申し出（議会運営委員会）

■事件

- 1 本会議の会期日程等議会の運営に関する事項について

■期限

平成29年第4回定例会まで。

【継続調査決定】

▼上川町村議会議員研修会

【議員派遣決定】

質疑応答

▼平成29年度中川町一般会計予算補正

■圃産地パワーアップ事業の詳細について

■圃事業主体は中川町地域農業再生協議会。事業の身について、1点目が施設整備事業、また2点目が生産支援事業、3点目が効果増進事業。

■今回は生産支援事業ということで、中川町そば生産組合のリース方式による農業機械導入に対して支援するもの。
■圃産地パワーアップ事業補助は当初から計画していたもの？

■圃事業主から年度途中での事業要望の申し出があった。

■圃産地パワーアップ事業の対象事業者の範囲について。

■圃必ずしも法人組合のみが対象という訳ではないが、現実、事業効果が一定程度図られなと採択がされない事業のため、個人申請をしても採択さ

れる可能性は低い。

■圃林業作業道は今後どの程度の路網密度まで新設する予定なのか？

■圃具体的な数値目標はもっていない。北大研究林、国有林とも連携し、施設計画と照らし合わせて進めていく。

■圃林業成長産業化地域創出モデル事業の今後の進め方は？

■圃林野庁から事業不採択の通知を受けたため予算は減額したもの、本事業計画の一部は町の自己財源で進める。木材加工流通の企業誘致の条件整備、安川地域に特化した企業誘致や起業支援の構想の中で事業規模や優先順位の判断をしていく考え。

■圃ポンピラアクアリズイングの施設改修実施設計委託料の内訳は？

■圃事業予算の総体では建築工事が3億1500万、設備は8500万程度を想定し委託料の算定をしている。

■圃ポンピラアクアリズイング改修、必要箇所の調査は？

■圃昨年度実施した基本設計を基本とし、温浴施設の改修並びに機械室等については今回の実施設計の中で、また、全

体的な改修必要箇所についても調査を行う。

■圃世田谷区の交流情報発信拠点施設運営事業の進捗状況は？

■圃当初の目的である都市部との地域間交流をさらに進めていく。

■圃サテライトスペースには9月16日時点で、のべ1万2355名の方が来場。営業日の1日平均入り込み客が51人程度。テレビ放送などでも取り上げられている。

■圃日大生のアイデアで取り入れるべきものはあったか？

■圃今年の秋味まつりにおいて、日大ゼミの方がアンケート調査を実施した。10月14日開催のナカガワのナカガワ1周年記念イベントでその結果が発表されると期待している。

■圃寄附金100万円のうち50万円が図書購入費となっているが、残りの50万は？

■圃次年度予算を組んで、執行する予定。

林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の 充実・強化を求める意見書

本道の森林は全国の森林面積の約4分の1を占め、国土保全、地球温暖化防止、林産物の供給等の多面的機能の発揮が期待されており、これらの機能を十分に発揮させるためには、「植えて育てて、伐って使って、また植える」といった森林資源の循環利用を進める必要がある。

森林の整備を進め、木材を積極的に利用していくことは、山村地域を中心とする雇用・所得の拡大による地方創生にも大きく貢献するものである。

このような中、道では、森林の公益的機能の維持増進と森林資源の循環利用の実現に向け、森林整備事業及び治山事業や次世代林業基盤づくり交付金等を活用し、植林・間伐や路網の整備、山地災害の防止、木造公共施設の整備など、さまざまな取り組みを進めてきたところである。

また、国では市町村主体の新たな森林整備を進める財源として「森林環境税(仮称)」の創設に向けた検討を進めている。

今後、人工林資源が本格的な利用期を迎える中、こうした取り組みをさらに加速し、地域の特性に応じた森林の整備を着実に進めるとともに、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化を実現するための施策の充実・強化を図ることが必要である。

よって、国においては、次の措置を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 市町村が継続的に森林の整備などを着実に進められるよう、「森林環境税(仮称)」を早期に創設すること。税制度の創設に当たっては、都道府県の積極的なかわりのもと、森林の整備はもとより木材の利用を含め幅広く活用できる仕組みとすること。
- 2 森林の多面的機能を持続的に発揮し、林業・木材産業の振興と山村における雇用の安定化を図るため、森林整備事業及び治山事業の財源を十分かつ安定的に確保すること。
- 3 森林資源の循環利用を通じて林業・木材産業の成長産業化を実現するため、地域の実情を十分に踏まえ、森林整備から木材の加工・流通、利用までの一体的な取り組みに対する支援措置を充実・強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年9月20日

内閣総理大臣 他10名 宛

北海道中川郡中川町議会議長 佐藤 輝雄

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

我が国の地球温暖化対策については、2020年度及び2020年以降の温室効果ガス削減目標が国際的に約束されているが、その達成のためには、とりわけ森林吸収源対策の推進が不可欠となっている。

しかしながら、森林が多く所在する山村地域の市町村においては、木材価格の低迷や林業従事者の高齢化・後継者不足に加え、急速な人口減少など、厳しい情勢にあるほか、市町村が、森林吸収源対策及び担い手の育成等山村対策に主体的に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

このような中、政府・与党は、『平成29年度税制改正大綱』において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税(仮称)の創設に向けて、地方公共団体の意見も踏まえながら、具体的な仕組み等について総合的に検討し、平成30年度税制改正において結論を得る」との方針を示したところである。

もとより、山村地域の市町村による森林吸収源対策の推進や安定した雇用の場の確保などの取り組みは、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や地方創生等にもつながるものであり、そのための市町村の財源の強化は喫緊の課題である。

よって、下記の制度創設について実現を強く求めるものである。

記

平成29年度税制改正大綱において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税(仮称)の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年9月20日

内閣総理大臣 他7名 宛

北海道中川郡中川町議会議長 佐藤 輝雄

問 木質バイオマスエネルギーの 取り組みについて

答 「森林文化の再生」をうたう 中川にとつて、必然性がある



今野大樹 議員

政策の大きな柱である林業振興について、今年度も新たな事業や継続事業が行われている。現状の進捗状況や課題について確認したい。具体的に次の点について伺いたい。

- 1 山村活性化交付金事業について
- 2 林業成長産業化地域創出モデル事業について
- 3 林業に関わる「道」の現状と課題について
- 4 木質バイオマスエネルギーについて

1点目は、山地未利用材や低質材を原料とするKIRO RIプロダクトの開発、木工クラフト原料のマーケット創出や、薪販売事業に関する仕組みづくりや薪コンテナなどの設備導入、さらに木材以外の森林性素材の活用の取り組みを進めている。また、本事業を地域おこし協力隊制度と

連携し全国から広い分野で若者の移住につながっており、本事業の展開が確実に地域資源を活用した事業の掘り起しや、雇用の創出と移住定住に結びついていると認識している。

課題は地域住民に対する周知度を深めながら生産体制の安定性と製品の品質をいかに高い水準で維持して行くのかである。

2点目は、北海道大学研究林や上川北部森林管理署と密接に連携する中で、高性能林業機械の導入や、誘致企業を核とする木材流通加工の施設整備を目指し、それらの事業を支える人材の育成や資金調達と共に、地域における木材増産計画の策定を検討していたが本事業は不採択の通知を受けた。

しかし、当初想定した全町地域に広げた計画から、安川地域の企業誘致や起業支援に

特化した「アベシナイエコタウン構想」(仮称)として町単独事業として進めたい。

3点目は、本町において森林整備を進め林業振興を達成するためには、路網整備は必要不可欠な施策であり、早急な課題である。開設後の管理については年間管理コストを含め管理体制の構築が未完了であることから、事業体との意見交換をしながら管理体制の整備に取り組んでいく。

4点目は、「森林文化の再生」を掲げる本町にとつて、木質バイオマスエネルギーへの取り組みは、地域としての必然性があり、公共施設の中で最も経済代替効果の高いポンピラアクアリズィングを想定した木質バイオマスエネルギー導入の可能性を検討してきた。

二酸化炭素600トンの温室効果ガス削減が可能で、毎年町外に流出するコストパフ

オーマンスも、最大で13,981千円が町内に還元されることが推測されている。

薪ボイラー導入に向けた実施設設計に取り組む予算の議会議決を頂いたことから、課題である原料の供給体制や管理の運営体制についても、具体的な調査検証を進めていく。

再質問

新産業の採算性には疑問がある。収支で100万円ほどの赤字となっている中、本町に産業化できるのか？

川口町長

民間が主体で進められるなら行政が手を出すことはないが、厳しい情勢の中で芽を出し成長させるためのきっかけづくりをし、最終的に民間企業の自立を進めていきたい。

再質問

卒業後の協力隊員が中川に定住できるかはその生業で生活できるかだが、それは本当に可能か？

川口町長

当町の定着率は高いと認識

しているし、採用の面接時、本人に将来のビジョン・ストーリーを持ちなさいと話しており、そのことには町としてしっかりバックアップしていく。

再質問

町として支援をしていくことに理解はできるが、他の地元企業との公平性が保てるような一定のルールが必要だと思うので検討されたい。

木質バイオマスに関しては、町内の関係者との議論が不足していると思う。また、木質バイオマスエネルギー事業に取り組みが増えている中で、資源は売り手市場と考えるのがいかがか。

川口町長

森林管理署・北大研究林との協議で支援を頂けるという話で進んでおり、資源的な問題は無いと考えている。しかし、新生産体制という部分では課題があり、どう進めるかを煮詰めていく必要がある。

売り手市場という点に関しては、エネルギーの地産地消という考えであり、その方向で議論を進めたい。

問 豊かな暮らしの町づくりにむけて

答 安定した医療サービスの提供に努めます

町民が豊かさを感じながら暮らせる町中川を目指して、

伺いたします。

町と議会・各委員会は日夜具

体的行政の執行に邁進しており

ますが、北海道・道北・中

川町を取り巻く社会情勢に明

るさが見られなく、むしろ停

滞感が感じられ、高齢化と人

口減少の情勢が更なる停滞感

を増幅している感が漂って居

るように思われます。そこで

次の諸点について町長にお伺

いたします。

1 住民説明会の開催状況と

公開は。そしてその取り組み

みは。また町長への手紙につ

川口町長

1 当初予算の主な内容を

「ことしの仕事」と題してま

とめた冊子を持ち、町内会・

自治会単位で開催しております。

29年度は6月に町内8か

所で開催し64名の参加を頂き

ました。子育て支援やJ R宗

谷線・医療や福祉など課題や

行政要望について意見交換を

させていただきました。

町長への手紙については、

直接提言を頂くため実施して

おり、毎年10〜15通ほど貴重

なご意見を頂き、私自身が直

接訪問し懇談をしております

も住民参加のマチづくりに大

切な要素であると認識してお

ります。

2 ①J R宗谷線の存続につ

いては宗谷本線活性化推進協

議会として、存続維持に向け

て国や道さらにJ Rに要望活

動を展開して参りました。ま

た国は路線見直しの責任はJ

R北海道にあり、沿線自治体

との協議を前提としておりま



鎌塚一成 議員

に向け取り組みを進め、医療サービスの安定して提供できるよう努めます。

④ 公共料金・下水道使用料

の未徴収は町民の皆様の信頼を大きく損なうことになり、

再発防止の見直しを行いました。チェック体制を強化し再

発防止に取り組み、職員一同

一層の緊張感を以て努めます。

3 町財政の現況についてで

ありますが、28年度末基金の

残高は26億6千万円、一方の

地方債は57億2千万円で、差

し引きでの地方債は30億円程

度多くなっております。本町

の地方債は単年度償還額の平準化に配慮して、交付税補てん率の高い地方債の発行により財政の健全性を保っております。次に人口減による負担

感の悪化についてですが、本

町の人口動態から、高齢化と

人口減少が進む中で不安感の

高まりは、一つのマインドと

して否定するものではなく、

厳しく受け止めなければなら

ないと考えております。今後

とも、財政の健全性に充分な

配慮をしながら、町民の皆様

の安心と豊かな暮らしの構築

に全力で取り組みます。



6月27日 音中トンネル(仮称)掘削現場の様子

中川町公共施設建設・改修調査特別委員会報告

1、調査事件名

- (1) 幼児センター新築について
- (2) ポンピラアクアリズینگ改修について
- (3) 木質バイオマスボイラー導入について

2、調査の経過

- ・平成29年3月30日(水)委員会室において担当課と意見交換。
- ・平成29年4月14日(木)現地委員会室において現地調査、担当課と意見交換。
- ・平成29年5月10日(水)委員会室において担当課と意見交換。
- ・平成29年6月6日(火)委員会室において中間報告の取りまとめ。
- ・平成29年6月21日(水)委員会室において中間報告の取り扱い。
- ・平成29年7月18日(火)委員会室において町長、担当課と意見交換。
- ・平成29年8月23日(水)現地委員会室において現地調査、最終報告の取りまとめ。

3、調査の結果又は概要(意見)

当特別委員会は平成29年3月に提案された平成29年度一般会計予算案の審査過程において審議された中で、(1)幼児センター新築(2)ポンピラアクアリズینگ改修(3)木質バイオマスボイラー導入の特に3点について事業内容、多大な予算額、十分な審査期間・住民意向の把握に不安の残る事等から執行について更なる検討を深める為に設置されたものであります。

よって諸点について審査したことから、以下の意見を具申します。

(1) 幼児センター新築について
本事業は、現施設の老朽化や入所者が十分な保育を受けるにはかなり狭隘なため、保育環境の向上を目指し今年度単年度での事業計画を予算化して進められています。当委員会は、この事業が本町としては大規模事業であり、また多額な事業費を要することなどから、事業遂行期間や細部にわたる執行予算の適正な管理が成されるよう注視し事業

執行に当たり、自然環境や現施設との状況把握に努めた事業管理を期待するものであります。

また、現施設の処分等取り扱いについては、新年度予算編成に関連することから、充分な協議をされるよう申し添えます。

(2) ポンピラアクアリズینگ改修について
平成29年度予算でクア施設部の改修と、関連して厨房給排水設備の改修等を予算化しています。ここ数年は毎年一部改修・補修を行い、運営を指定管理制度で委託していますが、躯体は建設以来25年が経過し経年劣化が激しく、別途計画のバイオマスエネルギー併設の事業計画もあり、当委員会として実態調査を実施し、本施設の今後について検討したところであります。過日、当施設の現況視察をした結果、アクアプール機械本体がすでに製造中止になっています(建設当時で最後の機械であった)。給排水設備、使

用機械・器具の交換部品が既に無く、故障時は代用部品で対応しており、機能停止の一手前前の運用状況でありました。特に給排水・厨房・浴室の内外壁・窓枠・階下への漏水対策が重要かつ急がれると思われまふ。当施設の抜本的改修・補修がまずもって喫緊の課題と認識したところでありまふ。

また、将来的な展望として、シングルルームの整備は昨今のホテル運営には不可欠とも思われまふ。町内関連業者とも相計りながら、当特別委員会は施設の抜本的な中期的維持・運営構想を立てて推進されるよう具申します。

さらに、改修・補修計画の策定に当たっては、町財政困難な現下において多額の指定管理委託料を支出している現況からも、経営面での十分な意見聴収がなされるべきと思われまふ。

特に商工業関係者や当該施設の運営を目的に設立され、指定管理者として指定し受託運営している(株)中川町地域開発振興公社など広く意見聴収されるよう申し添えます。

(3) 木質バイオマスボイラー導

入について
導入を計画している施設であるポンピラアクアリズینگについては、現在進めている改修計画をより精度の高い躯体全般に亘るものにし、10年15年と中長期の運営を可能にする改修が望ましいものと思われまふ。

したがって、ポンピラ温泉の躯体は25年経過して大規模改修が急がれる状況下にあつて、バイオマスボイラーの併設については中長期運用を目指すポンピラ温泉施設にはかなりの不具合が発生するものと想定されまふ。

また、本事業には多額の財源を必要とし多年に亘る債務負担を予定されまふ。且つ、当計画のバイオマスボイラー施設の燃料については、本町における安定した原料確保の計画、現燃料提供者との協議、当計画施設の運用に係わる人件費など諸経費の増大により長期に渡る債務負担も想定され、逼迫する町財政の硬直化など少なからぬ負担が考えられます。先に報告のあつた経済常任委員会事務調査結果報告も勘案したところからこの事業の実施は見合わせるべきものとする。



なかがわの鼓動



9月17日 なかがわ秋味まつり



9月17日 第29回丸太押し相撲大会



9月23日 パンケ山登山



9月23日 きこりのコンサート



10月1日 郵便局パークゴルフ大会



10月9日 第49回中川町スポーツ少年団
創立記念剣道大会

議会 日誌

7月

14日 佐久神社祭
18日 第6回中川町議会公共施設建設・改修調査特別委員会
第6回全員協議会

19日 上川管内町村議会議長研修会【旭川市】

25日 第5回議会運営委員会
第7回議員全員協議会
第2回臨時会
第4回議会基本条例制定特別委員会

26日 農業者ビールパーティー
28日 各種期成会夏季合同要望会

8月

【東京都】

2日 全道林活議連連絡会定期総会【札幌市】
5日 自民党政務調査会新幹線等鉄道調査会JR北海道対策PT「北海道の交通体系を考えるシンポジウム」【旭川市】

16日 中川町納涼盆踊り大会
17日 上川北部消防事務組合議会
22日 議会広報研修会【札幌市】
23日 第7回中川町議会公共施設建設・改修調査特別委員会

9月

23日 第8回議員全員協議会
24日 宗谷本線活性化推進協議会フォーラム【稚内市】

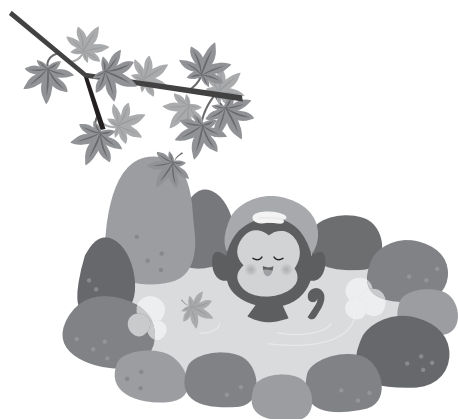
25日 道北地方森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会総会【旭川市】
西天北五町衛生施設組合議会定例会【幌延町】
30日 宗谷本線活性化推進協議会フォーラム【名寄市】

9月

2日 サイクリングイベント出迎え、北海道のサイクルツーリズムの推進に向けた検討委員会との意見交換会
3日 サイクリングイベント見送り
5日 新そば祭り【幌加内町】
第3回総務常任委員会
第2回イノチヲツナグ・プロジェクト推進会議及びピロベース見学会
8日 中川町敬老会
11日 中川町社協特別養護老人ホーム「一心苑」敬老会
12日 民進党北海道代表衆議院議員ささき隆博2017ふるさとの集い【旭川市】
山の神祭典

10月

13日 第6回議会運営委員会
第9回議会全員協議会
第3回経済常任委員会
15日 中川町交流情報発信拠点施設運営協議会交流会
17日 第35回ながわ秋味まつり及び第29回北海道丸太押し相撲大会
20日 第10回議会全員協議会
第3回定例会
21日 第4回経済常任委員会
5日 上川管内町村議会議長研修会
第2師団長野澤真様歓迎会【名寄市】



編集後記

町民の皆さんにとって「若者」とはどのような方を指すのでしょうか。世間一般では概ね20代という事になるのかもしれませんが。

しかしこの町では30代はもちろん、40代も若者の括りなのだろうと感じます。自分も40歳を目の前にしているのですが、議会の諸先輩方から見れば「若造」となるでしょう。また先月行われた秋味まつりの運営においても中心となり、動いていたのは30代、40代の方々であったと思います。

中川の活気を創り出すこの世代は様々なところで活躍されています。なかがわ育造会、消防団etc.数えればきりありません（もちろん夜の街でも元気なようですが）。

この町は60代、70代の方々が元気なで様々な立場で活躍されていますが、今年の日ハムのようにいつかは世代交代を進めなければなりません。

諸先輩には是非、この中川を盛り上げようと頑張る「若者」の背中を押し、育て、この町の未来を託す準備をして頂けたらと思います。（大記）

議会広報特別委員会

委員長 斉藤 俊幸
委員 今野 大樹



道産 間伐材使用 この広報紙は道産間伐材を使用しています。